



「南進する中国と東南アジアの「中国化」」

学習院大学

【 国際社会科学部 教授 末廣 昭 】

研究者紹介

1951年生まれ。東京大学大学院経済学研究科修了。アジア経済研究所、大阪市立大学経済研究所をへて、1992年から2016年まで東京大学社会科学研究所。2016年4月から現職。

タイ国チュラーロンコン大学客員研究員、ベルリン、メキシコシティ、リヨンなどでアジア経済論の集中講義を行う。専門はアジア経済社会論、タイ国地域研究。2010年、東南アジア研究で紫綬褒章を受章。

本研究の目的・内容

2007年から2016年まで10年間にわたって、人間文化研究機構の「現代中国研究」の一環として、東京大学社会科学研究所において、共同研究を進めてきた。とくに、研究のテーマは、Global Trade Atlas を活用した中国(省別)と東南アジア各国との貿易構造の変化、大陸部東南アジアで展開されている地域協力、とくに大メコン圏(GMS)開発の実態、GMSの中心事業である南北経済回廊や東西経済回廊の進捗状況などである。

経済回廊については、東西経済回廊(ベトナム＝ラオス＝タイ＝ミャンマー)をはじめ、過去10年間に合計11回、実地調査を行い(走行距離、約4万2000キロ)、その詳細な記録を4冊の報告書にまとめた(東京大学社会科学研究所「現代中国研究拠点、研究シリーズ」として)。

また、中国にとって活動しやすい制度・組織や環境を作り出す戦略を「中国化」(Sinicization)と定義し、その観点から実証研究を進めている。

本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

中国の対外戦略や対外経済活動については、数多くの研究業績がある。ところが、東南アジア諸国の側からみた中国の活動(中国の中央政府、地方政府、国有企業、民間企業など)に関する研究は、驚くほど少ない。これは日本における中国研究が「中国中心主義」に陥っているためである。

私たちの研究は、中国研究者と東南アジア地域研究者の共同作業である点に大きな特徴がある。

主な研究業績

【著書1】丸川知雄編『中国——新興国ネクサス』東京大学出版会、2018年(近刊)。

【著書2】末廣昭ほか『南進する中国と東南アジア——地域の「中国化」』東京大学社会科学研究所、現代中国研究拠点研究シリーズ No.13, 2014年、221頁。

【著書3】末廣昭ほか『中国の対外膨張と大メコン圏(GMS)・CLMV』東京大学社会科学研究所、現代中国研究拠点研究シリーズ No.7, 2011年、273頁。

応対できる研究・企業等への希望

1. 共同研究
2. 受託研究/評価試験
3. 学術指導/コンサルティング
4. 講演/出張講義
5. 寄付金受入
6. 報道等の取材/出演
7. その他()

研究者より:

【お問い合わせ】

学習院大学 研究支援センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©'12-'18 GAKUSHUIN